

研究所30周年記念シンポジウム 「21世紀の農業と環境」のご案内



1983年(昭和58年)12月に農林水産省 農業環境技術研究所が発足してから、本年(2013年)で30周年となります。これを記念して公開シンポジウムを開催し、研究

所の研究活動を広く皆様に知っていただくとともに、これからの農業と環境をともに考える機会としたいと思います。農業者、学生や一般の市民など、多くの方々のご参加をお待ちしています。

プログラムの詳細、参加方法などについては、農環研ウェブサイトをご覧ください。

農業環境技術研究所 30周年記念シンポジウム 「21世紀の農業と環境」

日時:平成25年12月13日(金曜日)午後1時~5時15分

場所:新宿明治安田生命ホール

(JR新宿駅西口から2分)

主催:独立行政法人 農業環境技術研究所

後援:農林水産省農林水産技術会議事務局

概要:

アジアモンスーン地域の気候変動と農業環境、放射性物質の環境動態、農地からの温室効果ガス発生抑制、多様な生き物と共存する農業、低カドミウム米の開発についての講演や報告のあと、21世紀の農業環境研究の方向について議論します。

(広報情報室)

八木研究コーディネータ 「土壌に関する政府間技術パネル」の委員に

土壌は、農業生産を通して人類に食料を供給し、文明の基盤を与えています。しかし、私たち人類はその歴史において常に土壌を荒らしてきました。現代においても、不適切な管理による土壌劣化が世界各地で認められます。

このような中、今世紀最大の課題である食料安全保障と気候変動への対応を視野に入れ、地球上の土壌資源を持続的に管理するため、またそのための普及教育・調査・研究を推進するため、2011年、「地球土壌パートナーシップ(GSP, Global Soil Partnership)」が



設立されました。GSPは世界各国の行政機関、学術研究機関、学術団体、民間等が参加する国際ネットワークで、国連食糧農業機関(FAO)内に事務局を置き活動しています。

GSP内には、世界トップクラスの土壌研究者から構成された



専門家委員会「土壌に関する政府間技術パネル(ITPS, Intergovernmental Technical Panel on Soils)」が設置され、GSPの活動に科学技術的な諮問・助言を行います。今回、その27名の委員の一人として、八木一行 研究コーディネータが選任されました。八木研究コーディネータは、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の活動に参加してきたほか、農業温室効果ガスに関する国際研究ネットワークであるグローバル・リサーチ・アライアンスの研究グループ議長を務めるなど、国際研究への貢献を海外からも認められており、GSPにおいてもその指導的役割の発揮が期待されます。

(広報情報室)